学校向けヤングケアラー実態調査結果
（概要版）

令和5年10月

長崎県

学校向けヤングケアラー実態調査の結果（概要版）

◆ 調査目的
ヤングケアラーに関する学校の状況やニーズ等を把握し、支援を必要としているヤングケアラーの早期発見や適切な支援につなげる方策を検討する。

◆ 実施時期　令和5年8月10日～9月19日

◆ 調査方法　WEB

◆ 調査対象　下表のとおり

	対象校数 (A)	回答数 (B)	【参考】 B/A ※
公立小学校	311	303	97.4%
公立中学校 （中等教育学校･義務教育学校後期課程含む）	168	158	94.0%
公立高等学校 （全日制･定時制）	65	52	80.0%
合計	544	513	94.3%

※同一校から複数回答の可能性があるため、参考として記載

学校向けヤングケアラー実態調査の結果（概要版）
①ヤングケアラーの認知度 ②ヤングケアラーと思われる子どもの有無

① ヤングケアラーという言葉を知っていると回答した割合は全学校種でほぼ100％である。
② ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した割合は小学校、中学校、高校の順に高くなっている。

①ヤングケアラーの概念の認識 (%)

	調査数(n)	言葉を知らない	言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない	言葉を知っており、学校として意識して対応している
小学校	303	0.0	1.0	18.8	80.2
中学校	158	0.0	3.8	15.8	80.4
高等学校	52	0.0	0.0	11.5	88.5

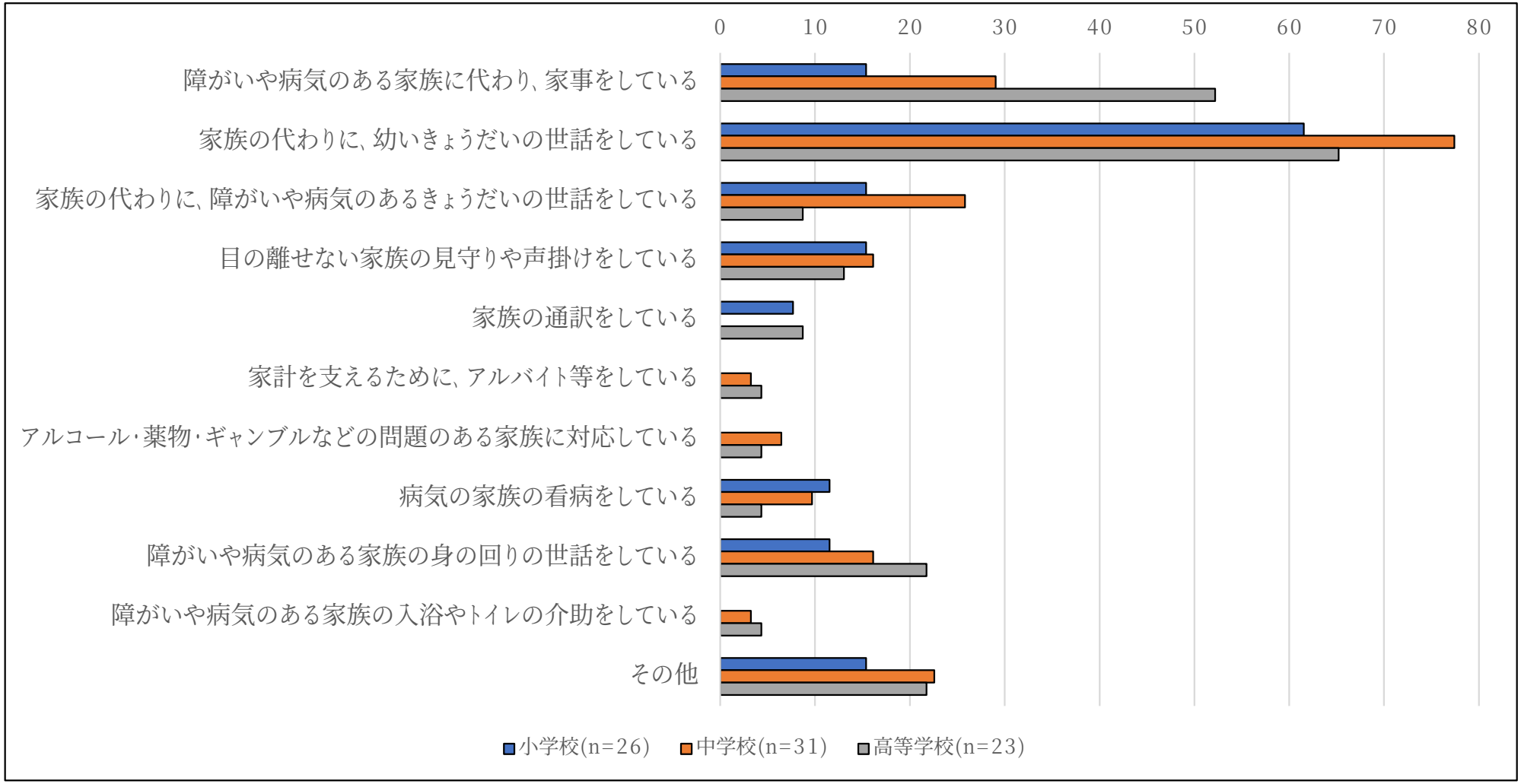
②ヤングケアラーと思われる子どもの有無(%)

	調査数(n)	いる	いない	わからない
小学校	303	8.6	83.5	7.9
中学校	158	19.6	63.9	16.5
高等学校	52	44.2	48.1	7.7

学校向けヤングケアラー実態調査の結果（概要版）
③ヤングケアラーと思われる子どもの状況

③　ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した学校での子どもの状況としては、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最も高い。また、高校では「障がいや病気のある家族に代わり、家事をしている」が小学校・中学校と比較して高くなっている。

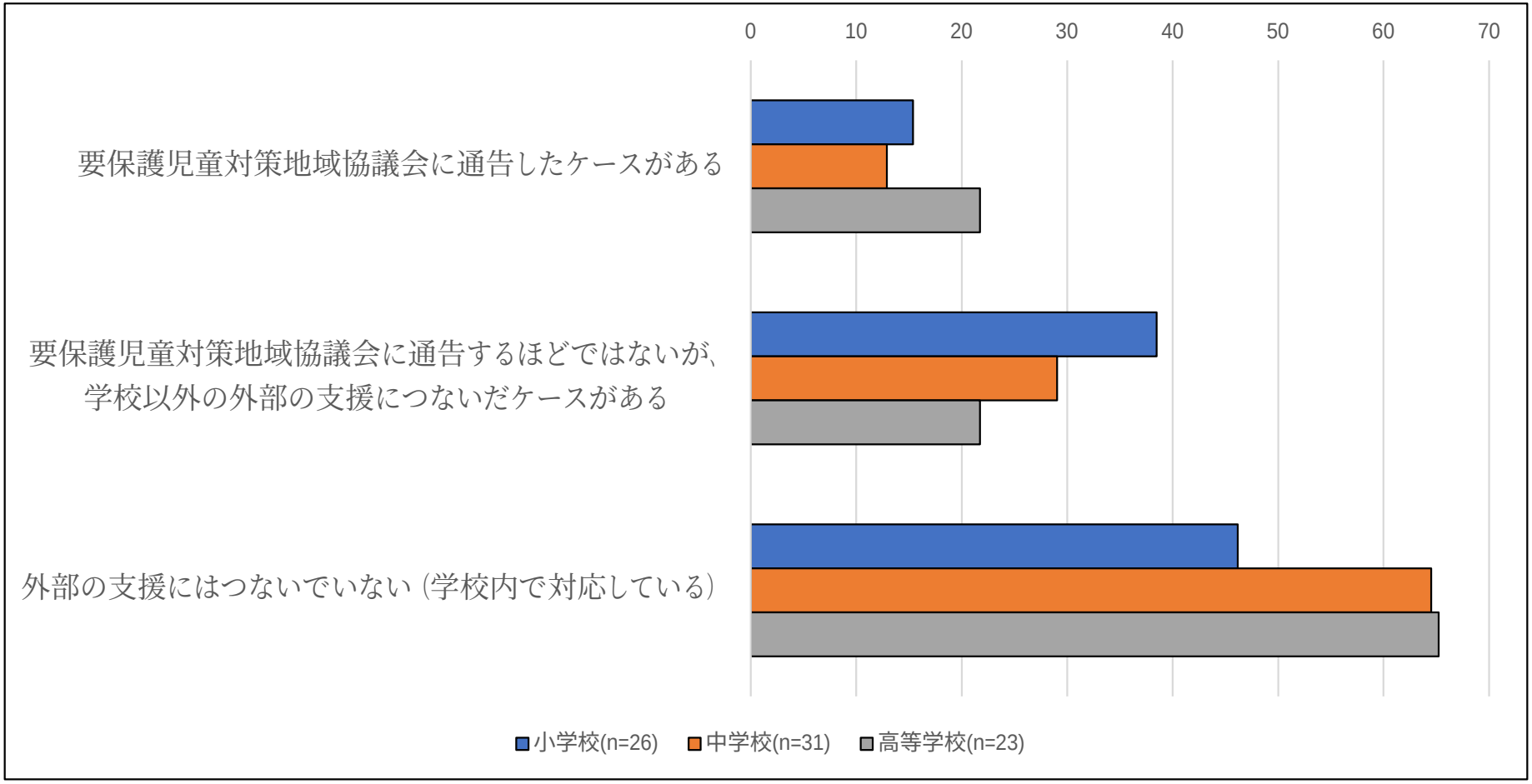
③ヤングケアラーと思われる子どもの状況（複数回答）　(%)



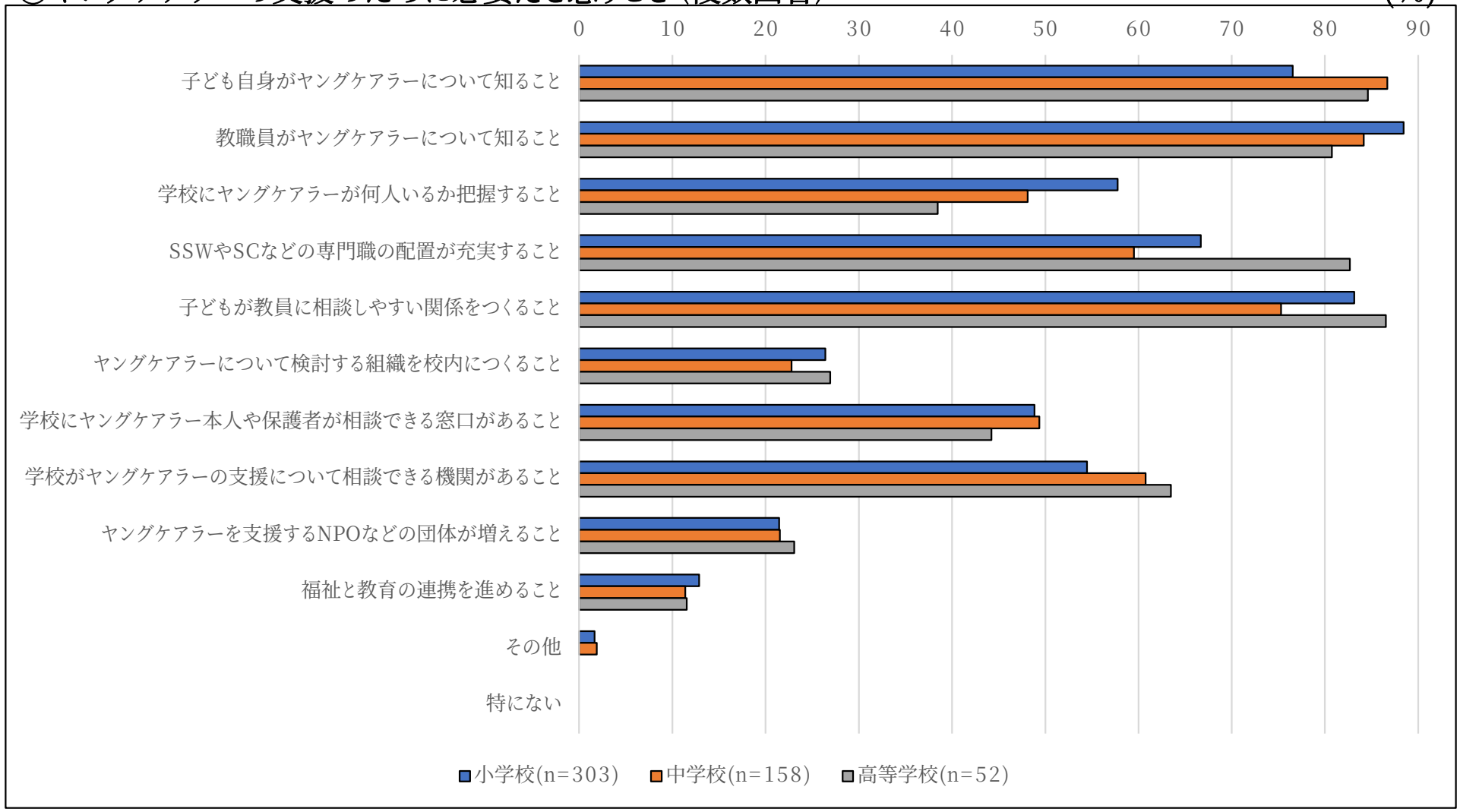
学校向けヤングケアラー実態調査の結果（概要版）
④外部の支援につないだケースの有無

④　ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した学校で、要保護児童対策地域協議会への通告のほか、何らかの外部の支援につないだケースの有無については、「外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」が最も多かった。

④外部の支援につないだケースの有無（複数回答）　(%)



学校向けヤングケアラー実態調査の結果（概要版）
⑤ヤングケアラーの支援のために必要だと思うこと

⑤　ヤングケアラーの支援のために必要だと思うことについては、「子ども自身／教職員がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が多かった。また、高校においては「SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること」も多くなっている。

⑤ヤングケアラーの支援のために必要だと思うこと（複数回答）　(%)